

# 知事懇談会で会頭が要望

京都府商工会議所連合会と京都府知事との懇談会が、昨年12月2日（水）に京都市内のホテルで開催され、当所からは廣瀬会頭と瀬川専務理事が出席しました。

この懇談会は、府内の各商工会議所が抱える課題や要望事項などについて、知事と会頭が直接に意見交換をする“場”として、年1回開催しており、山田知事・岡本商工労働観光部長と、府内8商工会議所の会頭・専務理事が参加しました。

府内の会頭から各々の地域の課題・要望などについて、山田知事との間で活発な意見交換が行われ、当所の廣瀬会頭は ①「舞鶴市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」への支援、②北近畿におけるLNG受入基地や広域パイプライン整備の2点について発言しました。



廣瀬会頭が地域の課題・要望について発言

## 【会頭発言と知事所見】

### ①「舞鶴市 まち・ひと・しごと創生総合戦略」への支援について

#### 会頭の発言

本市においては、「舞鶴市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地域が一丸となってその実現を図ろうと、産官学に加え「金融界」「労働界」「言論界」など市内50団体が参加して「第1回舞鶴市みらい戦略推進会議」を7月21日に立ち上げ、以後テーマ別に分科会形式で議論を重ねている。

その内容は、政策目標として『「交流人口300万人・経済人口10万人」都市・舞鶴』の実現。また、政策の4つの柱として「①仕事をつくり、安心して働けるようにする、②新しい人の流れをつくる、③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る」である。

また、この総合戦略を進めるためには、3つのポイントがあり、一つは、この地域に生まれ、学び、働き、健やかに暮らし、次世代へとバトンを繋いでいくというサイクルをしっかりと回すということ。二つ目には、地域のブランド力を向上させ、資産価値を上げ、地域の『富（とみ）』を増やすということ。三つ目には、北部5市2町の広域で取り組むということである。

この三つ目のポイントである「広域連携」は、府北部5市2町が「産業」「医療」「教育」など古くから一つの都市圏を形成してきたことから、交流人口の増加や消費の拡大、質の高い医療や教育を地域住民に提供するために、各々の地域の強みを活かしながら共通課題の解決に取り組むことで、30万都市圏を維持するこ

とが大切であり、府北部5市2町の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」について更なるご指導・ご支援をお願いします。

#### 知事の所見

広域連携については、かねてより、地方創生を推進するためには「連携都市圏の形成」が大切であるという私の思いの中で、国に対してもかなり強く働きかけてきた。

国は人口20万の都市を中心に再編するという方針を打ち出していたが、そうすると、県庁所在地以外では、日本海側の地方都市は生き残れないことになる。

そこで、連携都市圏というものを何とか国の政策構想の中に位置づけようと考え、他府県の知事仲間にも呼びかけて、地方政務調査会の中で、5～10万人規模の都市が連携する制度を認めてもらい、さらに国の地方創生戦略の中に位置づけるということに取り組んでいる。

これは、まさに府北部のためにしているようなもので、何とか国の戦略に入れさせるので、この流れの中で、地元においても新しい支援制度を作り、しっかりと連携できる体制をとってもらいたい。各会頭もその点について応援していただきたい。

### ② 北近畿におけるLNG受入基地や広域パイプライン整備について

#### 会頭の発言

現在、京都府と兵庫県の手合で「北近畿エネルギーセキュリティ・インフラ整備研究会」を設置し、北近